

企業ニュース デンカ

(東証1部 : 4061) <http://www.denka.co.jp>

作成者 : 兵藤三郎

電気化学から事業拡大した化学メーカー

1915年、灯火用として用いられていたカーバイドから、肥料用の石灰窒素を製造販売することを目的に、電気化学工業として設立。2015年に現在の社名に変更した。創業以来、技術の応用で様々な製品を生み出し、現在では無機・有機化学品から電子材料、医薬に至る幅広い分野でグローバルに展開する化学メーカー。1979年に連結したデンカ生研はインフルエンザ迅速診断キット国内シェアNo.1で、インフルエンザワクチンの大手メーカー。その他、アセチレンガスを原料に国内で初めて事業化したクロロプレンゴム（CR）や、半導体封止材用などに用いられる溶融シリカ（球状）では世界No.1シェアを持つ。インフラ分野に用いられる特殊混和材製品では国内トップメーカー。

◇19.3期売上高構成比、主要製品等

セグメント	構成比	主要製品等
エラストマー・機能樹脂	43	CR、スチレンモノマー、ポリスチレン樹脂等
インフラ	13	セメント、特殊混和材、肥料等
電子・先端	16	溶融シリカ、電子包装材等
生活・環境	10	食品包装材、住設資材、産業資材等
ライフ	8	ワクチン、診断薬、関節機能改善剤等
その他・消去	10	プラントエンジニアリング等

(注) セグメント名は略称、構成比の単位は% (出所) デンカ資料よりCAM作成

CR、電子・先端が業績をけん引

19.3期の連結業績は売上高が4,131億円、前期比4%増、営業利益が342億円、同2%増。スチレンモノマー定修影響（14億円の減益要因）、米国DPE（米国デュポン社より事業譲受したCR製造子会社）での凍害影響（10億円の減益要因）などの一時的なコスト要因を、電子・先端製品などの数量増、スプレッド良化などで補い増益となった。電子・先端では電子部品・半導体搬送用部材などは減収となったが、車両電動化分野を中心に電子回路基板や、高信頼性放熱プレート、高純度導電性カーボンブラックなどの伸長が寄与した。

20.3期業績の会社計画は、売上高が4,150億円、前期比微増、営業利益が380億円、同11%増。引き続き成長戦略による先行投資や固定費負担は増加するが、スプレッドの確保、車両電動化用途を中心とした電子・先端の伸長が業績をけん引する。定修やDPE凍害影響などの19.3期に発生した一時的コスト増要因の解消も増益貢献しよう。19.3期のインフルエンザワクチンは低返品率が業績貢献したが、20.3期は通年レベルの前提。

【株価動向・投資判断】

株価はPERで10倍台と割安感のある水準で、20.3期業績もCRの利益貢献、車両電動化分野での伸長が期待できる電子・先端の寄与が見込めよう。中期視点で取り組みたい銘柄。

<4061 デンカ 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	395,629 (9)	33,652 (30)	31,499 (36)	23,035 (27)	261.8	65.00
19.3	413,128 (4)	34,228 (2)	32,811 (4)	25,046 (9)	286.2	120.00
20.3 予	415,000 (1)	38,000 (11)	36,000 (10)	27,000 (8)	310.5	125.00

(注) 17年10月1日で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施。18.3期の1株配当は併合前の第2四半期末10円と併合後の期末55円の単純合計で表示。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2019/6/10)	3,170 円
年初来高値 (高値日)	3,575 円 (19/2/6)
同 安値 (安値日)	2,971 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	10.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,839.2 円
P B R	1.12 倍
予想配当利回り	3.94 %
(1株当たり配当金年125.00円)	
R O E (19.3)	10.3 %
発行済み株式数	8,856 万株